

Oracle Collaboration Suite

管理者ガイド

リリース 1 (9.0.3)

2002 年 11 月

部品番号 : J06952-01

ORACLE[®]

部品番号: J06952-01

原本名: Oracle Collaboration Suite Administrator's Guide, Release 1 Version 9.0.3

原本部品番号: B10031-02

原本協力者: John Bassett、Tanya Correia、Michele Cyran、Joseph Garcia、Laurel Hale、Cynthia Kibbe、Beth Morgan、Janelle Simmons、Deborah Steiner、Richard Strohm、Robb Surridge、GingerTabora、Jennifer Waywell

グラフィック・デザイナ: Valarie Moore

Copyright © 2002, Oracle Corporation. All rights reserved.

Printed in Japan.

制限付権利の説明

プログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）の使用、複製または開示は、オラクル社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権に関する法律により保護されています。

当プログラムのリバース・エンジニアリング等は禁止されております。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更されることがあります。オラクル社は本ドキュメントの無謬性を保証しません。

* オラクル社とは、Oracle Corporation (米国オラクル) または日本オラクル株式会社 (日本オラクル) を指します。

危険な用途への使用について

オラクル社製品は、原子力、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションを用途として開発されておりません。オラクル社製品を上述のようなアプリケーションに使用することについての安全確保は、顧客各位の責任と費用により行ってください。万一かかる用途での使用によりクレームや損害が発生いたしました、日本オラクル株式会社と開発元である Oracle Corporation (米国オラクル) およびその関連会社は一切責任を負いかねます。当プログラムを米国国防総省の米国政府機関に提供する際には、『Restricted Rights』と共に提供してください。この場合次の Notice が適用されます。

Restricted Rights Notice

Programs delivered subject to the DOD FAR Supplement are "commercial computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs, including documentation, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement. Otherwise, Programs delivered subject to the Federal Acquisition Regulations are "restricted computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs shall be subject to the restrictions in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software - Restricted Rights (June, 1987). Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このドキュメントに記載されているその他の会社名および製品名は、あくまでその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

目次

はじめに	iii
対象読者	iv
このマニュアルの構成	iv
関連文書	iv
表記規則	vi
1 概要	
概要	1-2
概要および機能	1-3
Flexible Architecture	1-3
整理統合された通信インフラストラクチャ	1-3
統合されたユーザー管理およびシングル・サインオン	1-4
統合された Web クライアント	1-4
Oracle Collaboration Suite Search	1-4
Outlook のサポート	1-4
標準サポート	1-5
Oracle Collaboration Suite のアプリケーション	1-6
Oracle Email	1-8
Oracle Voicemail & Fax	1-8
Oracle Calendar	1-8
Oracle Files	1-9
Oracle Ultra Search	1-9
Oracle9iAS Wireless	1-9

2 構成および管理

インストール後のタスク	2-2
セキュリティ・インフラストラクチャの配置	2-2
個別のアプリケーションの構成	2-3
アプリケーション URL の構成	2-12
「Tools」グローバル・ボタンで使用可能なクライアント・プログラム	2-15
ユーザー・グループ、ユーザー・ホームページおよび管理ページのインストール	2-16
Oracle9iAS Portal のクイック・ツアー・ページへの URL リンクの作成	2-20
Oracle Collaboration Suite ユーザーのプロビジョニング	2-22
Oracle Collaboration Suite の管理	2-22
Oracle Collaboration Suite へのアプリケーションの追加	2-23
Application Server の URL の構成	2-23
Oracle Collaboration Suite のユーザー・グループ、ユーザー・ホームページおよび 管理ページのインストール	2-23

A Oracle Collaboration Suite へのアプリケーションの移行

Oracle9i Application Server と Oracle Collaboration Suite の互換性	A-2
既存の Oracle9i Application Server インフラストラクチャの利用	A-3
既存の中間層プラットフォームの利用	A-3
既存の Oracle Enterprise Manager のインフラストラクチャの利用	A-4
既存のアプリケーションの移行	A-4

索引

はじめに

このマニュアルでは、Oracle Collaboration Suite を使用するための概要、インストール後の作業、構成および移行について説明します。

この章の内容は、次のとおりです。

- [対象読者](#)
- [このマニュアルの構成](#)
- [関連文書](#)
- [表記規則](#)

対象読者

このマニュアルは、Oracle Collaboration Suite 全体を理解し、インストール後に Oracle Collaboration Suite のアプリケーションを構成する必要のある管理者を対象としています。

このマニュアルを使用するには、Oracle9i リレーショナル・データベースおよび Oracle9i Application Server の基礎知識が必要です。

このマニュアルの構成

このマニュアルは、次のように構成されています。

第 1 章「概要」

この章では、Oracle Collaboration Suite およびそのアプリケーションについて説明します。

第 2 章「構成および管理」

この章では、Oracle Collaboration Suite のアプリケーションの構成方法および管理方法について説明します。

付録 A「Oracle Collaboration Suite へのアプリケーションの移行」

この付録では、Oracle Collaboration Suite への移行方法について説明します。

関連文書

詳細は、次の Oracle マニュアルを参照してください。

- 『Oracle Collaboration Suite for HP 9000 Series HP-UX, Linux Intel, and Solaris Operating System (SPARC) インストレーション・ガイド』
- 『Oracle Collaboration Suite リリース・ノート』
- 『Oracle Collaboration Suite ユーザーズ・ガイド』
- 『Oracle Calendar Server Administrator's Guide』
- 『Oracle Calendar Server Reference Manual』
- 『Oracle Calendar Web Client Administrator's Guide』
- 『Oracle Calendar API Developer's Guide』
- 『Oracle CorporateSync for Palm User's Guide for Macintosh』
- 『Oracle Email 管理者ガイド』
- 『Oracle Email Application Developer's Guide』
- 『Oracle Email Java API Reference』

- 『Oracle Email Migration Tool ガイド』
- 『Oracle Files 管理ガイド』
- 『Oracle Outlook Connector User's Guide』
- 『Oracle Ultra Search User's Guide』
- 『Oracle Ultra Search Java API Reference』
- 『Oracle Voicemail & Fax Administrator's Guide』
- 『Oracle9iAS Wireless Administrator's Guide』

次のマニュアルでは、Oracle Collaboration Suite のインフラストラクチャの使用方法について説明しています。

- 『Oracle Collaboration Suite for HP 9000 Series HP-UX, Linux Intel, and Solaris Operating System (SPARC) インストレーション・ガイド』
- 『Oracle Files 管理ガイド』
- 『Oracle Ultra Search User's Guide』
- 『Oracle Internet Directory 管理者ガイド』
- 『Oracle Calendar Server Administrator's Guide』
- 『Oracle Email Migration Tool ガイド』
- 『Oracle9i Application Server 管理者ガイド』
- 『Oracle9i Application Server セキュリティ・ガイド』
- 『Oracle9iAS Single Sign-On Administrator's Guide』
- 『Oracle Enterprise Manager 管理者ガイド』

リリース・ノート、インストール・マニュアル、ホワイト・ペーパーまたはその他の関連文書は、OTN-J (Oracle Technology Network Japan) に接続すれば、無償でダウンロードできます。OTN-J を使用するには、オンラインでの登録が必要です。次の URL で登録できます。

<http://otn.oracle.co.jp/membership/>

すでに OTN-J のユーザー名およびパスワードを取得済であれば、次の OTN-J Web サイトの文書セクションに直接接続できます。

<http://otn.oracle.co.jp/document/>

表記規則

この項では、このマニュアルの本文およびコード例で使用される表記規則について説明します。この項の内容は次のとおりです。

- 本文中の表記規則
- コード例中の表記規則
- Windows オペレーティング・システム用の表記規則

本文中の表記規則

本文では、特別な用語をより迅速に識別できるように、様々な表記規則を使用します。次の表に、それらの表記規則を説明し、その使用例を示します。

表記規則	意味	例
太字	太字は、本文中で定義されている用語または用語集で記載されている用語（あるいはその両方）を示します。	この句を指定すると、索引構成表が作成されます。
固定幅のフォント 大文字	固定幅フォントの大文字は、システムが提供する要素を示します。このような要素には、パラメータ、権限、データ型、Recovery Manager のキーワード、SQL キーワード、SQL*Plus またはユーティリティ・コマンド、パッケージおよびメソッドが含まれます。また、システムが提供する列名、データベース・オブジェクト、データベース構造、ユーザー名およびロールも含まれます。	NUMBER 列に対してのみ、この句を指定できます。 BACKUP コマンドを使用して、データベースのバックアップを取ることができます。 USER_TABLES データ・ディクショナリ・ビュー内の TABLE_NAME 列を問い合わせます。 DBMS_STATS.GENERATE_STATS プロシージャを使用します。
固定幅フォントの 小文字	固定幅フォントの小文字は、実行可能ファイル、ファイル名、ディレクトリ名およびユーザーが提供する要素のサンプルを示します。このような要素には、コンピュータ名、データベース名、ネット・サービス名および接続識別子が含まれます。また、ユーザーが提供するデータベース・オブジェクトとデータベース構造、列名、パッケージとクラス、ユーザー名とロール、プログラム・ユニットおよびパラメータ値も含まれます。 注意: 大文字と小文字を組み合せて使用するプログラム要素もあります。これらの要素は、記載されているとおり入力してください。	sqlplus と入力して、SQL*Plus をオープンします。 パスワードは、orapwd ファイルで指定します。 /disk1/oracle/dbs ディレクトリ内のデータ・ファイルおよび制御ファイルのバックアップを取ります。 hr.departments 表には、department_id、department_name および location_id 列があります。 QUERY_REWRITE_ENABLED 初期化パラメータを true に設定します。 oe ユーザーとして接続します。 JRepUtil クラスが次のメソッドを実装します。

表記規則	意味	例
固定幅フォントの小文字のイタリック ク	固定幅フォントの小文字のイタリックは、プレースホルダまたは変数を示します。	<code>parallel_clause</code> を指定できます。 <code>Uold_release.SQL</code> を実行します。ここで、 <code>old_release</code> とはアップグレード前にインストールしたリリースを示します。

コード例中の表記規則

コード例は、SQL、PL/SQL、SQL*Plus またはその他のコマンドライン文を示します。コード例は、固定幅フォントで表示され、通常のテキストと区別されます。

```
SELECT username FROM dba_users WHERE username = 'MIGRATE';
```

次の表に、コード例で使用される表記規則を説明し、その使用例を示します。

表記規則	意味	例
[]	大カッコは、任意に選択する 1 つ以上の項目を囲みます。大カッコは、入力しないでください。	<code>DECIMAL (digits [, precision])</code>
{ }	中カッコは、2 つ以上の項目を囲み、そのうち 1 つの項目は必須です。中カッコは、入力しないでください。	<code>{ENABLE DISABLE}</code>
	縦線は、大カッコまたは中カッコ内の 2 つ以上のオプションの選択項目を表します。いずれかのオプションを入力します。縦線は、入力しないでください。	<code>{ENABLE DISABLE}</code> <code>[COMPRESS NOCOMPRESS]</code>
...	水平の省略記号は、次のいずれかを示します。	<code>CREATE TABLE ... AS subquery;</code>
	■ 例に直接関連していないコードの一部が省略されている。	
	■ コードの一部を繰り返すことができる。	<code>SELECT col1, col2, ... , coln FROM employees;</code>
.	垂直の省略記号は、例に直接関連しない複数の行が省略されていることを示します。	<code>SQL> SELECT NAME FROM V\$DATAFILE;</code> <code>NAME</code> ----- <code>/fsl/dbs/tbs_01.dbf</code> <code>/fsl/dbs/tbs_02.dbf</code> . <code>/fsl/dbs/tbs_09.dbf</code> <code>9 rows selected.</code>

表記規則	意味	例
その他の句読点	大カッコ、中カッコ、縦線および省略記号以外の句読点は、表示されているとおり入力する必要があります。	acctbal NUMBER(11,2); acct CONSTANT NUMBER(4) := 3;
イタリック体	イタリック体は、特定の値を指定する必要があるプレースホルダや変数を示します。	CONNECT SYSTEM/ <i>system_password</i> DB_NAME = <i>database_name</i>
大文字	大文字は、システムが提供する要素を示します。これらの用語は、ユーザー定義の用語と区別するために大文字で示されます。用語が大カッコ内にないかぎり、表示されているとおりの順序および綴りで入力します。ただし、これらの用語は大 / 小文字が区別されないため、小文字でも入力できます。	SELECT last_name, employee_id FROM employees; SELECT * FROM USER_TABLES; DROP TABLE hr.employees;
小文字	小文字は、ユーザー定義のプログラム要素を示します。たとえば、表名、列名、ファイル名などです。 注意: 大文字と小文字を組み合せて使用するプログラム要素もあります。これらの要素は、記載されているとおり入力してください。	SELECT last_name, employee_id FROM employees; sqlplus hr/hr CREATE USER mjones IDENTIFIED BY ty3MU9;

Windows オペレーティング・システム用の表記規則

次の表に、Windows オペレーティング・システム用の表記規則を説明し、その使用例を示します。

表記規則	意味	例
「スタート」>	プログラムの起動方法	Database Configuration Assistant を起動するには、「スタート」>「プログラム」>「Oracle- HOME_NAME」>「Configuration and Migration Tools」>「Database Configuration Assistant」を 選択します。
ファイル名および ディレクトリ名	ファイル名およびディレクトリ名は、大 / 小文字が識別されません。特殊文字のうち、 左山カッコ (<)、右山カッコ (>)、コロン (:)、二重引用符 ("")、スラッシュ (/)、縦 線 () およびダッシュ (-) は使用できま せん。特殊文字のうち円記号 (¥) は、引用 符で囲まれている場合でも要素セパレータ として処理されます。Windows では、ファ イル名が ¥で始まっている場合、汎用ネー ミング規則が使用されていることになります。	c:\winnt\system32 は、C:\WINNT\SYSTEM32 と 同じです。
C:¥>	現行ハード・ディスク・ドライブの Windows コマンド・プロンプトを表しま す。コマンド・プロンプトのエスケープ文 字はカレット (^) です。プロンプトは作業 中のサブディレクトリを示します。このマ ニュアルでは、コマンド・プロンプトと呼 びます。	C:\oracle\oradata>
特殊文字	Windows コマンド・プロンプトの特殊文字 のうち二重引用符 ("") には、エスケープ文 字として、特殊文字の円記号 (¥) が必要な 場合があります。カッコおよび一重引用符 () には、エスケープ文字は必要ありません。 エスケープ文字および特殊文字の詳細 は、ご使用の Windows オペレーティング・ システムのマニュアルを参照してください。	C:¥>exp scott/tiger TABLES=emp QUERY=¥"WHERE job='SALESMAN' and sal<1600¥" C:¥>imp SYSTEM/password FROMUSER=scott TABLES=(emp, dept)
HOME_NAME	Oracle ホーム名を表します。ホーム名には、 英数字で 16 文字まで使用できます。ホーム 名に使用可能な特殊文字はアンダースコア のみです。	C:¥> net start OracleHOME_NAMETNSListener

表記規則	意味	例
<i>ORACLE_HOME</i> および <i>ORACLE_BASE</i>	<p>Oracle8i リリース 8.0 以下のリリースでは、Oracle コンポーネントをインストールすると、すべてのサブディレクトリが最上位の <i>ORACLE_HOME</i> ディレクトリに配置されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Windows NT の場合 : C:\orant ■ Windows 98 の場合 : C:\orawin98 <p>今回のリリースは、Optimal Flexible Architecture (OFA) のガイドラインに準拠しています。<i>ORACLE_HOME</i> ディレクトリに配置されないサブディレクトリもあります。<i>ORACLE_BASE</i> と呼ばれる最上位ディレクトリがあります。このディレクトリは、デフォルトで C:\oracle となります。他の Oracle ソフトウェアがインストールされていないコンピュータに Oracle の最新リリースをインストールする場合、最初の Oracle ホーム・ディレクトリのデフォルト設定は、C:\oracle\orann となります。nn は最新のリリース番号です。Oracle ホーム・ディレクトリは、<i>ORACLE_BASE</i> の直下に配置されます。</p> <p>このマニュアルに示すすべてのディレクトリ・パスの例は、OFA 表記規則に従っています。</p>	<i>ORACLE_BASE</i> \ <i>ORACLE_HOME</i> \rdbms\admin ディレクトリに進みます。

1

概要

このマニュアルは、Oracle Collaboration Suite の管理者を対象に、Oracle Collaboration Suite の概要、配置、構成および管理情報について説明します。

この章の内容は、次のとおりです。

- [概要](#)
- [概要および機能](#)
- [Oracle Collaboration Suite のアプリケーション](#)

概要

Oracle Collaboration Suite は、個人とチーム間の通信、アプリケーションが作成したコンテンツ、およびアプリケーションをサポートするインフラストラクチャを管理するアプリケーションの統合セットです。

Oracle Collaboration Suite は、メッセージ、カレンダリング、ファイル・サーバーの統合、統合検索機能、および様々なタイプのクライアント・インターフェースからの様々なタイプの非構造化データへのアクセス機能を提供します。

たとえば、非構造化データには次のものが含まれます。

- 電子メール・メッセージ
- ドキュメント・ファイル
- ボイスメール・メッセージ
- FAX
- Web ページ
- マルチメディア・ファイル
- XML ファイル

インターフェースには次のものが含まれます。

- デスクトップ・クライアント
- Web クライアント
- 携帯電話などの携帯情報端末
- 携帯電話
- FAX

Oracle9i データベースを基盤として、Oracle Collaboration Suite はデータを安全で信頼性の高い方法で管理します。

概要および機能

この項では、次の概要、機能および Oracle Collaboration Suite への適用方法について説明します。

- Flexible Architecture
- 整理統合された通信インフラストラクチャ
- 統合されたユーザー管理およびシングル・サインオン
- 統合された Web クライアント
- Oracle Collaboration Suite Search
- Outlook のサポート
- 標準サポート

Flexible Architecture

Oracle Collaboration Suite はスケーラブルで、幅広い情報記憶要件およびユーザー・アクセス負荷に対応するためにカスタマイズすることができます。Oracle9i データベースおよび Oracle9i Application Server の基盤は、最小限のハードウェアで何千ものユーザーをサポートできる複数層のインターネット・コンピューティング・アーキテクチャを提供します。また、ユーザーへのサービスに割り込みずに、すべての層でハードウェアを追加する機能を提供します。

整理統合された通信インフラストラクチャ

Oracle Collaboration Suite は Oracle9i データベース機能を使用して、企業のすべての通信要件を満たす、安全で信頼性が高く、統合された単一のプラットフォームを提供します。特に、電子メールおよびファイル・システムを整理統合し、複数のファイル・タイプを検索できます。また、Oracle9i Real Application Clusters および Oracle Data Guard の使用をサポートします。

統合されたユーザー管理およびシングル・サインオン

ユーザーは、Oracle Internet Directory で定義および集中管理されます。ユーザーが単一のユーザー名およびパスワードで複数のアプリケーションにログインできるシングル・サインオンが、Oracle Collaboration Suite のすべての Web インタフェースでサポートされています。ユーザーは、ディレクトリに追加された際、暗黙的に Oracle9iAS Wireless、Oracle Files および Oracle Ultra Search にプロビジョニングされます。また、個々のアプリケーションの Oracle Email、Oracle Voicemail & Fax および Oracle Calendar にプロビジョニングすることもできます。

参照： ユーザーのプロビジョニングについては、[第 2 章「構成および管理」](#) の [「Oracle Collaboration Suite の管理」](#) を参照してください。

統合された Web クライアント

Oracle Collaboration Suite は、ブラウザが使用可能なコンピュータ用に統合された Web クライアントを提供します。基礎となる Oracle9i Application Server を使用して、安全なシングル・サインオン環境を提供します。統合された Web クライアントを使用すると、メッセージ（電子メール、ボイスメールおよび FAX）、カレンダ、ディレクトリ情報、および大規模なコラボレーション用に設計されたファイル・サーバーである Oracle Files に格納されているコンテンツにアクセスできます。

Oracle Collaboration Suite Search

Oracle Collaboration Suite は、Web ページ、Oracle Files および Oracle Email に含まれるデータを統一検索する機能を提供します。

参照： Oracle Collaboration Suite Search の管理については、『Oracle Files 管理ガイド』を参照してください。

Outlook のサポート

Oracle Collaboration Suite は、Outlook Connector を使用して、Oracle Email および Oracle Calendar に機能を割り当てることで、Microsoft Outlook をサポートします。Exchange システム上の Outlook ユーザーは、メッセージ・ストアとして Oracle9i データベースを使用するよう、透過的に切り替えることができます。

ユーザーは、Oracle Email および Oracle Calendar のサーバーからの最新情報が格納された、電子メールおよびカレンダのローカル・フォルダを同期化できます。ユーザーは、ネットワークから切断するときに、ローカル・コピーを変更できます。また、次回ログインする際に、オフラインの変更を電子メールおよびカレンダ・サーバーにアップロードすることもできます。

標準サポート

Oracle Collaboration Suite は、電子メール、カレンダリング、ファイル管理およびデータ・アクセスに関連付けられた多くの Internet Engineering Task Force (IETF) および業界標準をサポートします。次のものが含まれます。

電子メール：

- Internet Message Access Protocol (IMAP)
- Post Office Protocol (POP3)
- Simple Mail Transfer Protocol (SMTP)

音声およびボイスメール：

- VPIM
- ECTF s.410
- Voice XML

カレンダリング：

- iCalendar
- SynchML
- iTIP/ iMIP

ファイル・アクセス：

- Server Message Block (SMB)
- File Transfer Protocol (FTP)
- Network File System (NFS)
- Appletalk Filing Protocol (AFP)
- World Wide Web Distributed Authoring and Versioning (WebDAV) Protocol

ワイヤレス・アクセス：

- HyperText Transfer Protocol (HTTP)
- Mobile XML フォーマット (WML や i モードなどのフォーマットされたデバイス)
- Short Message Service (SMS)
- Voice XML

Oracle Collaboration Suite のアプリケーション

Oracle Collaboration Suite のアプリケーションには、何千または何百万ものユーザーを持つ企業規模の実装をサポートするための機能があります。アプリケーションは、グローバル企業全体でサーバーを管理できる管理ツールを使用します。

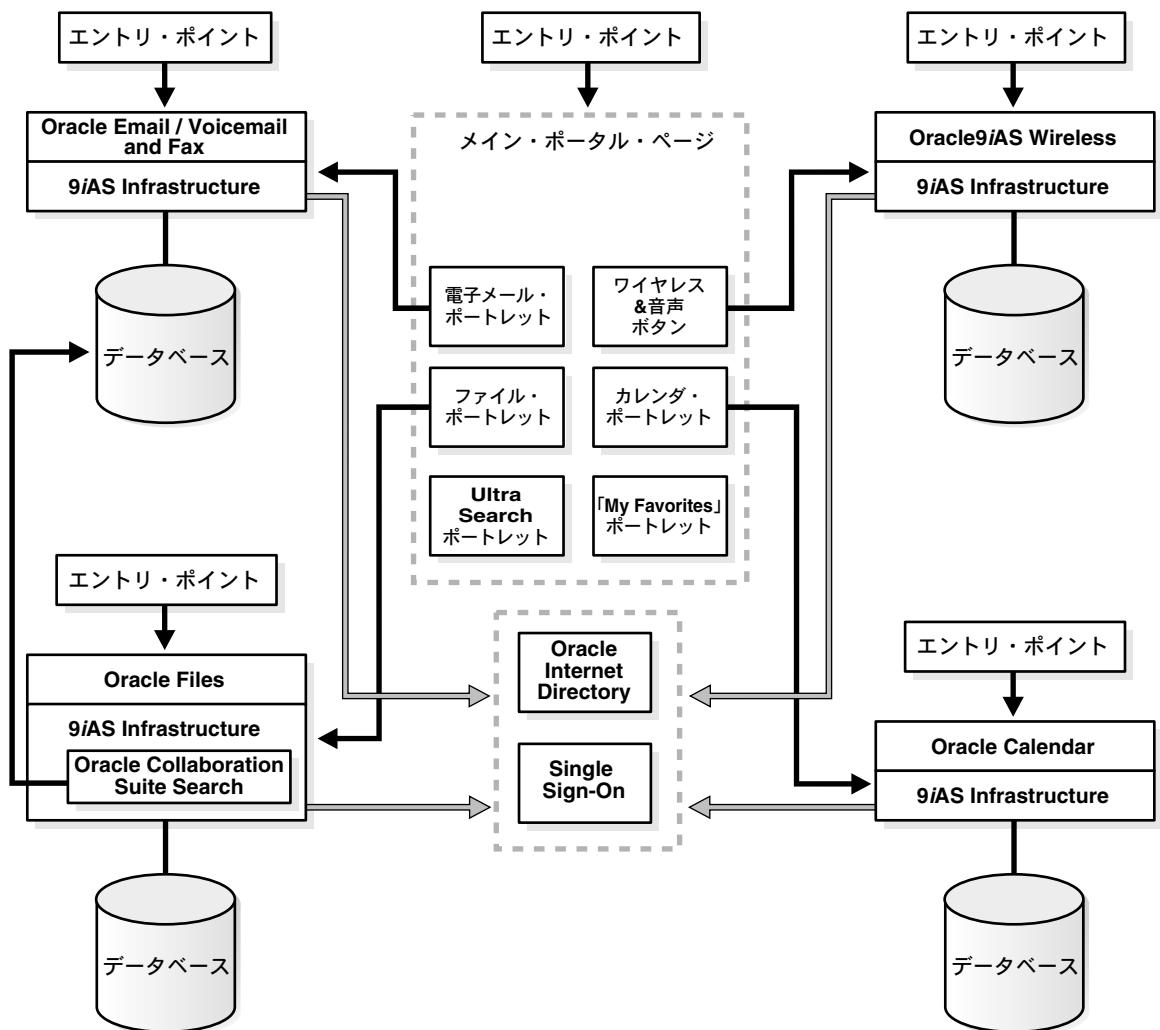
Oracle Collaboration Suite には、次の Oracle アプリケーションが含まれます。これらのアプリケーションによって、異なるタイプの通信、コンテンツ、コンテキスト・ソリューションが提供されます。

- [Oracle Email](#)
- [Oracle Voicemail & Fax](#)
- [Oracle Calendar](#)
- [Oracle Files](#)
- [Oracle Ultra Search](#)
- [Oracle9iAS Wireless](#)

図 1-1 に、各アプリケーションの関係と、安全にサービスにアクセスするための複数の方法を示します。ユーザーは、ポータル・ページ上のポートレットまたは個々のアプリケーションの URL から、Oracle Collaboration Suite のアプリケーションにアクセスできます。たとえば、図 1-1 には、ポータル・ページに埋め込まれた電子メール、ファイル、検索、ワイヤレス & 音声、カレンダ、「My Favorites」ポートレットが示されています。ユーザーがポートレットをクリックすると、要求が適切な Oracle Collaboration Suite のアプリケーションに送信され、Single Sign-On Server に転送されます。Single Sign-On Server は、Oracle Internet Directory へのユーザー・エントリに対するユーザーを認証します。ディレクトリの認証後、ユーザーの要求は Oracle Collaboration Suite のアプリケーションで処理され、ユーザーに応答が戻されます。

ポータル・ページが使用されていない場合は、Web ブラウザ、デスクトップ・クライアント、携帯情報端末、携帯電話または FAX から、アプリケーションに直接アクセスできます。

図 1-1 Oracle Collaboration Suite のアプリケーション



参照: Oracle Collaboration Suite の使用方法については、『Oracle Collaboration Suite ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

Oracle Email

Oracle Email は、整理統合されたメール・ストアの提供によって、管理コスト、ハードウェア・コスト、ソフトウェア・コストを削減する、スケーラブルで信頼性の高い、安全なメッセージ・システムです。

Oracle Email は電子メールのメッセージ・ストアとして Oracle9i データベースを使用し、Oracle の機能を活用して、すべてのタイプの情報のアクセス、格納、管理を提供します。スケーラブルで信頼性の高い Oracle9i メッセージ・ストアを基盤とし、Oracle Email はメッセージ配信、業界標準のクライアント・アクセス、ブラウザ・ベースのクライアントおよび管理ユーティリティを提供します。

参照： Oracle Email については、『Oracle Email Administrator's Guide』を参照してください。

Oracle Voicemail & Fax

Oracle Voicemail & Fax は、ボイスメールおよび FAX に対し、一元化され安全なメッセージ記憶域および検索を提供する、スケーラブルで信頼性の高いボイスメールおよび FAX のシステムです。

Oracle Voicemail & Fax は、ボイスメールおよび FAX メッセージに Oracle Email メッセージ・ストアを使用します。Oracle Voicemail & Fax は、Oracle9i マルチスレッド・データベースのすべての機能を利用して、何千もの同時ユーザーのパラレル処理、高可用性および応答時間の大幅な短縮を実現します。スケーラブルで信頼の高い Oracle Email メッセージ・ストアを基盤とし、Oracle Voicemail & Fax は電話処理、配信、ワイヤレス通知、ブラウザ・ベースのクライアントおよび管理ユーティリティを提供します。

参照： Oracle Voicemail & Fax については、『Oracle Voicemail & Fax Administrator's Guide』を参照してください。

Oracle Calendar

Oracle Calendar は、デスクトップ・クライアント、Web およびすべてのモバイル端末を使用して、カレンダリング、スケジューリング、個人情報管理 (PIM) 機能を提供します。スケーラブルなカレンダ・アーキテクチャを使用することで、企業全体で高度なグループ・カレンダおよびリソース・スケジューリングを使用できます。

参照： Oracle Calendar については、『Oracle Calendar Server Administrator's Guide』を参照してください。

Oracle Files

Oracle Files は、スケーラブルで信頼性の高い、整理統合されたファイル・サーバーから、ユーザーのコラボレーションおよびファイル共有をサポートする、ホスティングされたコンテンツ管理アプリケーションです。Oracle Files は、ワークスペースまたは企業内で、あらゆる種類のファイルを他人と簡単に共有できる、Web ベースの高度なユーザー・インターフェースを提供します。セルフサービス管理機能を使用すると、高生産性機能およびネットワーク・プロトコル・サーバーによって、作成済の安全な公開コンテンツにワークスペースを作成できます。Oracle Files は、データ・センターおよびユーザーのファイル・システムを管理できます。

参照 :

- Oracle Files のインストールおよび構成については、『Oracle Collaboration Suite for HP 9000 Series HP-UX, Linux Intel, and Solaris Operating System (SPARC) インストレーション・ガイド』を参照してください。
- Oracle Collaboration Suite Search の管理については、『Oracle Files 管理ガイド』を参照してください。

Oracle Ultra Search

Oracle Ultra Search は、企業ユーザーがインターネットまたはエクストラネットで重要な情報を検索できる企業検索エンジンです。Oracle Ultra Search は、Web ページや Oracle9i データベースなどのデータ・ソースに対する統一の検索機能を提供します。また、これらの機能を拡張すると、Oracle Collaboration Suite Search を使用して、他のカスタム・データ・ソースを検索することもできます。

参照 :

- Oracle Ultra Search については、『Oracle Ultra Search User's Guide』を参照してください。
- Oracle Collaboration Suite Search の管理については、『Oracle Files 管理ガイド』を参照してください。

Oracle9iAS Wireless

Oracle9iAS Wireless を使用すると、あらゆるモバイル端末から、あらゆる場所で企業情報にフル・アクセスできます。Oracle9iAS Wireless によって、ユーザーは音声ガイド、PDA、Web 対応の携帯電話およびポケットベルを使用して、電子メール、カレンダ、タスク情報、ファイル、企業ディレクトリにアクセスできます。Oracle9iAS Wireless は、重要なイベントおよび電子メールについてアラートを送信することができます。また、自分の位置または状況を定義できるため、アラートをデスクトップ、携帯電話、その他のデバイスに適切にルーティングできます。

2

構成および管理

この章では、Oracle Collaboration Suite の構成方法および管理方法について説明します。

この章の内容は、次のとおりです。

- インストール後のタスク
- Oracle Collaboration Suite ユーザーのプロビジョニング
- Oracle Collaboration Suite の管理
- Oracle Collaboration Suite へのアプリケーションの追加

インストール後のタスク

インストール後のタスクを実行する前に、Oracle Universal Installerにより、次の手順で Oracle Collaboration Suite が正しくインストールされたことを確認します。

1. Oracle Universal Installer で、Oracle9i Application Server に、Oracle Collaboration Suite のインフラストラクチャをインストールします。
2. Oracle Universal Installer で、Oracle9i Application Server に、Oracle Collaboration Suite の中間層アプリケーションをインストールします。
3. Oracle Collaboration Suite の middle-tier アプリケーションのインストール中に、次の手順で Oracle9iAS Portal および Oracle9iAS Wireless を選択する必要があります。
 - 1台の中間層コンピュータのみで、Oracle9iAS Portal を構成します。
 - 1台以上の中間層コンピュータで、Oracle9iAS Wireless を構成します。必要に応じて、複数の中間層コンピュータで Oracle9iAS Wireless を構成する場合もあります。

Oracle Collaboration Suite の他のアプリケーションは、どのような順序でも 1台以上の中間層コンピュータにインストールおよび構成できます。

インストール後、次に示す順序でインストール後のタスクを実行する必要があります。

- セキュリティ・インフラストラクチャの配置
- 個別のアプリケーションの構成
- アプリケーション URL の構成
- 「Tools」グローバル・ボタンで使用可能なクライアント・プログラム
- ユーザー・グループ、ユーザー・ホームページおよび管理ページのインストール
- Oracle9iAS Portal のクイック・ツアー・ページへの URL リンクの作成

セキュリティ・インフラストラクチャの配置

Oracle Collaboration Suite は、Oracle9i Application Server のセキュリティ・インフラストラクチャに依存して、ディレクトリまたはシングル・サインオンをサポートします。

すでに既存の Oracle9i Application Server を所有している場合は、Oracle Collaboration Suite のパッチのインストール後にこのセキュリティ・インフラストラクチャを使用します。

中間層アプリケーションを構成する場合は、セキュリティ・インフラストラクチャの位置が要求されます。

参照 :

- セキュリティ・インフラストラクチャの構成については、『Oracle9i Application Server 管理者ガイド』の「Oracle9iAS Infrastructure の管理」を参照してください。
- セキュリティ・インフラストラクチャの構成については、『Oracle9i Application Server セキュリティ・ガイド』を参照してください。
- ディレクトリの使用については、『Oracle Internet Directory 管理者ガイド』を参照してください。
- Single Sign-On Server の使用については、『Oracle9iAS Single Sign-On 管理者ガイド』を参照してください。

個別のアプリケーションの構成

インストール後、インストール中に選択したアプリケーションを構成する必要があります。個別のアプリケーションの構成については、次のアプリケーション固有のマニュアルを参照してください。

参照 :

- Oracle Files の構成については、『Oracle Collaboration Suite for HP 9000 Series HP-UX, Linux Intel, and Solaris Operating System (SPARC) インストレーション・ガイド』を参照してください。
- Oracle Email の構成については、『Oracle Email 管理者ガイド』を参照してください。
- Oracle Calendar および Oracle Calendar Web Client の構成については、『Oracle Calendar Server Administrator's Guide』、『Oracle Calendar Server Reference Manual』および『Oracle Calendar Web Client Administrator's Guide』を参照してください。
- Oracle Voicemail & Fax の構成については、『Oracle Voicemail & Fax Administrator's Guide』を参照してください。
- Oracle Ultra Search の構成については、『Oracle Ultra Search ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
- Oracle9iAS Wireless の構成については、『Oracle9iAS Wireless Administrator's Guide』を参照してください。
- Oracle Collaboration Suite Search については、『Oracle Files 管理ガイド』を参照してください。

次の追加構成タスクについては、このマニュアルで説明しています。

- Oracle Calendar Server の環境変数の設定
- タブへの Oracle Calendar の URL の追加
- Calendar Server および Oracle Calendar Web Client での共有キーの構成
- Oracle Calendar Web Client 用の Calendar Server ホストの指定
- Oracle Calendar ユーザーへのディレクトリ共通名属性の指定
- アプリケーション管理ページへの「Return to Portal」ボタンの追加
- Oracle Collaboration Suite Search の構成
- Oracle Workflow と Oracle Files の統合

Oracle Calendar Server の環境変数の設定

注意： この項の内容は、Windows ユーザーには適用されません。

Oracle Collaboration Suite のインストール中に `root.sh` スクリプトを実行すると、Oracle Calendar Server 以外のすべてのアプリケーションに環境変数が設定されます。unison ユーザーに切り替え、複数の環境変数を設定する `oraenv` スクリプトを実行してから、ご使用の UNIX プラットフォームの次の環境変数を手動で設定する必要があります。

- `SHLIB_PATH` (HP-UX 用)

この環境変数を設定しないと、Oracle Calendar Server および Oracle Calendar Server ユーティリティを起動できません。

次の手順で、Oracle Calendar Server に適切な環境変数を設定します。

1. Oracle Calendar Server をインストールして `root.sh` スクリプトを実行した後、root ユーザーに切り替えて、unison ユーザーにパスワードを設定します。
2. unison ユーザーに切り替えて、ご使用のシェルに応じて次のコマンドで `oraenv` スクリプトを実行します。

C シェルまたは C シェルから派生したシェルの場合：

`$ORACLE_HOME/bin/coraenv`

他のシェルの場合：

`$ORACLE_HOME/bin/oraenv`

このスクリプトの実行時、環境変数 \$ORACLE_HOME が設定されていないことに注意してください。スクリプトによってこの環境変数の設定が求められ、\$PATH およびその他の環境変数に加えて、この環境変数が設定されます。

- oraenv スクリプトの終了後、\$ORACLE_HOME/lib に環境変数 LD_LIBRARY_PATH を手動で設定する必要があります。

ご使用のシェルによって、設定に使用するコマンドが異なります。

- Bourne、Korn またはそれらのシェルから派生したシェルの場合、システム・プロンプトで次のコマンドを使用します。

```
LD_LIBRARY_PATH=$ORACLE_HOME/lib;export LD_LIBRARY_PATH
```

- C シェルまたは C シェルから派生したシェルの場合、システム・プロンプトで次のコマンドを使用します。

```
setenv LD_LIBRARY_PATH $ORACLE_HOME/lib
```

4. 次のコマンドで、Oracle Calendar Server を起動します。

```
/users/unison/bin/unistart
```

この時点での必要な Oracle Calendar Server ユーティリティを実行することができます。

Oracle Calendar Server を停止するには、次のコマンドを使用します。

```
/users/unison/bin/unistop
```

注意： unison ユーザーでログインするたびに、手順 2 および 3 を実行する必要があります。ログインするたびにこれらの手順を実行する必要がないようにするには、管理者は .cshrc、.profile、.kshrc などの unison ユーザーのシェル初期化ファイルに、これらの手順を設定する必要があります。

タブへの Oracle Calendar の URL の追加

Oracle Email のインストール後に Oracle Calendar をインストールすると、Oracle Collaboration Suite のホームページに Oracle Calendar のタブおよび URL が自動的に設定されます。ただし、Oracle Calendar のインストール後に Oracle Email をインストールする場合、または Oracle Email を再インストールする場合は、

ThinClientNavigationBar.properties ファイルを変更して、5 つではなく 6 つのタブを設定します。

次の手順でプロパティを編集し、ThinClientNavigationBar.properties ファイルで 6 つのタブを指定します。

1. **UNIX ユーザー** : テキスト・エディタを使用して、\$ORACLE_HOME/um/client/lib/oracle/mail/admin/ui ディレクトリの ThinClientNavigationBar.properties ファイルをオープンします。

Windows ユーザー : テキスト・エディタを使用して、C:\Sun\client\lib\oracle\mail\admin\ui ディレクトリの ThinClientNavigationBar.properties ファイルをオープンします。

2. 次に示す「Admin Tabs second level」セクションを確認します。

```
#####
# Admin Tabs second level #
#####
```

3. admin_number_of_second_level_tabs パラメータを確認して、値を 5 から 6 に変更します。

4. 次の行を確認し、各行の先頭のハッシュ記号 (#) を削除してコメントを解除します。

```
#6_2tab_link=calendar administration URL
#6_2tab_label=PF_CALENDAR
#6_2tab_permission=SYSTEM_DOMAIN
```

5. 6_2tab_link は、「Calendar Admin」ページの URL です。calendar administration URL をこの URL に置き換えます。

たとえば、URL が

<https://host:port/cgi-bin/caladmin/uniwebadm.cgi?CADMType=CADMClusterAdmin> の場合、host および port を指定します。

Calendar Server および Oracle Calendar Web Client での共有キーの構成

ネイティブ・クライアントおよびOutlook Connectorを使用するユーザーは、カレンダの要求時にユーザー名とパスワードを入力し、直接Calendar Serverに接続します。しかし、シングル・サインオンを使用すると、ユーザーはWebサーバーで直接認証されるため、ユーザー名とパスワードの資格証明は、Calendar Serverでの認証には渡されません。かわりに、Calendar Serverは、Oracle Calendar Web Clientとサーバーのそれぞれの構成ファイルに格納されている同一の共有キーを使用します。

Oracle Calendar Web ClientがCalendar Serverとの接続を開始すると、認証メカニズムによってこれらの2つのキーが同一であるかどうかが確認されます。キーが同一の場合、ユーザーがOracle Calendar Web Clientからカレンダを要求すると、サーバーはWebサーバー側の認証メカニズムを信頼して、情報を渡します。

共有キーはインストール時に自動的に生成され、Oracle Calendar Web ClientおよびCalendar Serverの構成ファイルに格納されます。これは、同一のマシンに両方のコンポーネントがインストールされている場合は問題ありません。ただし、Calendar Serverを1つのホストにインストールした後、Oracle Calendar Web Clientを別のコンピュータにインストールした場合、またはCalendar Serverの複数のインスタンスとWebアプリケーションをインストールした場合は、インストーラによって生成された共有キーは一致しません。共有

キーが一致しない場合、それぞれの構成ファイルの共有キーの値を手動で変更する必要があります。

次の手順で、構成ファイルの共有キーの値を変更します。

1. **UNIX ユーザー** : Calendar Server で、テキスト・エディタを使用して /users/unison/misc ディレクトリの unison.ini ファイルをオープンします。

Windows ユーザー : Calendar Server で、テキスト・エディタを使用して C:\users\unison\misc ディレクトリの unison.ini ファイルをオープンします。

注意 : C: ドライブは、Oracle Collaboration Suite の中間層コンポーネントがインストールされているドライブです。

2. 次のセクションを確認します。

```
[ACE_PLUGINS_SERVER]
web_CAL_sharedkey = string
```

3. web_CAL_sharedkey の値を共有キーの新しい値に変更して、ファイルを保存します。
4. **UNIX ユーザー** : Oracle Calendar Web Client で、テキスト・エディタを使用して、\$ORACLE_HOME/Apache/Apache/fcgi-bin/lexacal-private/ini ディレクトリの webcal.ini ファイルをオープンします。

Windows ユーザー : Oracle Calendar Web Client で、テキスト・エディタを使用して、C:\Apache\Apache\fcgi-bin\lexacal-private\ini ディレクトリの webcal.ini ファイルをオープンします。

5. 次のセクションを確認します。

```
[ACE_PLUGINS_CLIENT]
web_CAL_sharedkey = string
```

6. web_CAL_sharedkey の値を Calendar Server の unison.ini ファイルの値と一致するように変更して、ファイルを保存します。

参照 : 『Oracle Calendar Server Administrator's Guide』の付録 D 「セキュリティ」を参照してください。

Oracle Calendar Web Client 用の Calendar Server ホストの指定

この項の内容は、複数の中間層を複数回インストールする場合にのみ適用されます。初回のインストールでは自動的に構成されます。このパラメータは、起動時に、Oracle Calendar Web Client がどの Calendar Server に接続するかを判断します。

UNIX ユーザー : \$ORACLE_HOME/Apache/Apache/fcgi-bin/lexacal-private/ini ディレクトリに格納されている webcal.ini ファイルの次のパラメータを変更します。

Windows ユーザー : C:\Apache\Apache\fcgi-bin\lexacal-private\ini ディレクトリに格納されている webcal.ini ファイルの次のパラメータを変更します。

```
[server]
alias = hostname,node

alias は表示される別名です。また、hostname および node は、次のとおり、最初の
Calendar Server インスタンスのマスター・ノードを指す必要があります。

one = calserv1,391
```

Oracle Calendar ユーザーへのディレクトリ共通名属性の指定

Oracle Internet Directory の Delegated Administration Service GUI 内の「Attribute for Login Name」フィールドは、デフォルトで「User name」属性が格納されている LDAP 属性 cn (共通名) に設定されます。インストール時に、「Attribute for Login Name」の値は Calendar Server の unison.ini ファイルに格納されます。Calendar Server はその値によって、着信接続要求の認証に使用する一意のユーザー識別子を判断します。Calendar Server のインストール後に「Attribute for Login Name」の値を変更する場合は、ユーザーが Calendar クライアントにサインインできるように、手動で unison.ini ファイルに変更を適用する必要があります。

次の手順で、unison.ini ファイルのユーザー名属性を手動で変更します。

1. **UNIX ユーザー** : Calendar Server で、テキスト・エディタを使用して、/users/unison/misc ディレクトリの unison.ini ファイルをオープンします。

Windows ユーザー : Calendar Server で、テキスト・エディタを使用して、C:\users\unison\misc ディレクトリの unison.ini ファイルをオープンします。

2. 次のセクションを確認します。

```
[LDAP]
attr_uid = LDAP_attribute_name
```

3. attr_uid の値を Oracle Internet Directory 内の「Attribute for Login Name」の値に変更して、ファイルを保存します。

アプリケーション管理ページへの「Return to Portal」ボタンの追加

Oracle Collaboration Suite のホームページから Oracle Collaboration Suite のアプリケーションに移動すると、「Return to Portal」ボタンが自動的に設定されます。ただし、URL を入力して直接アプリケーション管理ページに移動すると、各アプリケーション管理ページにボタンを設定する必要があります。次の項では、各アプリケーションの「Return to Portal」グローバル・ボタンの設定方法について説明します。

- Oracle Email および Oracle Voicemail & Fax の管理ページへの「Return to Portal」ボタンの追加

- Oracle Files 管理ページへの「Back to Portal」ボタンの追加

Oracle9iAS Wireless および Oracle Ultra Search では、各管理ページに手動で「Return to Portal」ボタンを設定する必要はありません。

Oracle Email および Oracle Voicemail & Fax の管理ページへの「Return to Portal」ボタンの追加
 URL を入力して、Oracle Voicemail & Fax または Oracle Email の管理ページに直接移動する場合、「Return to Portal」ボタンは ThinClientNavigationBar プロパティ・ファイルからデフォルト値を導出します。

次の手順でプロパティ・ファイルを変更して、
 ThinClientNavigationBar.properties ファイルのボタンのデフォルト値を変更します。

1. **UNIX ユーザー**：テキスト・エディタを使用して、
`$ORACLE_HOME/um/client/lib/oracle/mail/admin/ui` ディレクトリの
`ThinClientNavigationBar.properties` ファイルをオーブンします。

Windows ユーザー：テキスト・エディタを使用して、
`C:\$um\$client\$lib\$oracle\$mail\$admin\$ui` ディレクトリの
`ThinClientNavigationBar.properties` ファイルをオーブンします。

2. 次のセクションを確認します。

```
#####
# global buttons #
#####
number_of_global_buttons=4
1_button_image_path=/um/images/globalbutton_returntoportal
1_button_image_full_path=/um/images/globalbutton_returntoportal.gif
1_button_link=/pls/portal
```

3. `1_button_link` の値を変更して、Oracle Collaboration Suite のホームページの URL を指定します。

4. 次のセクションを確認します。

```
#####
# UM Admin global buttons #
#####
umadmin_number_of_global_buttons=1
umadmin_1_button_image_path=/um/images/globalbutton_returntoportal.gif
umadmin_1_button_image_full_path=/um/images/globalbutton_returntoportal.gif
umadmin_1_button_link=/pls/portal
umadmin_1_button_label=PF_RETURN_TO_PORTAL
```

5. `umadmin_1_button_link` の値を変更して、Oracle Collaboration Suite のホームページの URL を指定します。

この時点で、「Return to Portal」ボタンを押すと、Oracle Collaboration Suite のホームページに戻ります。

Oracle Files 管理ページへの「Back to Portal」ボタンの追加

URL を入力して Oracle Files 管理ページに直接移動する場合、Oracle Files の「Server Configuration」ページで、「Back to Portal」ボタンを Oracle Collaboration Suite のホームページの URL に設定する必要があります。

次の手順で、「Back to Portal」グローバル・ボタンに URL を設定します。

1. Oracle Files の「Server Configuration」プロパティ・ページに移動します。
2. Oracle Files 管理ページの「Configuration」セクションの「Server Configuration」をクリックします。
3. 「Server Configuration」ページで、「FilesBaseServerConfiguration」をクリックします。
4. 「Properties」ページの「Properties」セクションで、「IFS.SERVER.APPLICATION.FILES.PortalUrl」サーバー構成プロパティを選択し、値を Oracle Collaboration Suite のホームページの URL に変更します。
5. 「OK」をクリックします。
6. OC4J インスタンスを再起動します。Oracle9i Application Server のインスタンス・ホームページで、「OC4J_iFS_files」を選択し、「Restart」をクリックします。

この時点で、「Back to Portal」ボタンを押すと、Oracle Collaboration Suite のホームページに戻ります。

Oracle Collaboration Suite Search の構成

注意： OCS Search で電子メール・メッセージの検索を可能にするには、各電子メール・ユーザーは、次の権限を有効にする必要があります (Unified Messaging システムの管理者は、各電子メール・ユーザーでこれらの設定ができるように変更する必要があります)。

- 「Text Synchronization」フィールドに「Indexed for text and binary」を設定する (デフォルト値は Not indexed)
 - 「Document Binary Search」フィールドに「True」を設定する (デフォルト値は False)
-

参照： Oracle Collaboration Suite Search の構成については、『Oracle Files 管理ガイド』の「Oracle Collaboration Suite Search Configuration」を参照してください。

次の手順で、Oracle Collaboration Suite Search で電子メールの内容の検索を可能にします。

1. Oracle Enterprise Manager Web Site にログインし、Unified Messaging を実行中の中間層を選択します。
2. Oracle Enterprise Manager Web Site が実行中でない場合は、`emctl start` コマンドで起動します。
3. `ias_admin/password` としてログインします。`ias_admin` のパスワードは、Oracle9i Application Server のインストール時に Oracle9i Application Server インスタンスに入力するパスワードです。
4. Oracle9i Application Server の「System Components」の表の「**Unified Messaging**」をクリックして、Unified Messaging のメイン・ページを表示します。
5. 「Service Targets」表の「**Unified Messaging Housekeeping**」を選択します。Unified Messaging Housekeeping が実行中でない場合は、起動します。
6. 「**Unified Messaging Housekeeping**」をクリックします。
7. インスタンス・リンクを選択します。たとえば、「`gc:102893533967892717`」を選択すると、インスタンス・ページが表示されます。
8. 次のパラメータを設定します。
 - a. Text Synchronization -- **有効**
 - b. Text Optimization -- **有効** (オプションのパフォーマンス・パラメータ)
 - c. Process Sleep Duration を 5 に変更します。値の単位は分で、デフォルトは 60 です。
9. 「**Apply**」をクリックします。
10. インスタンスを停止して起動します。

テストするには、`tuser1/password` として Unified Messaging にログインし、メッセージ本文に「shazam」と書いて電子メールを送信します。

5 分間（「Process Sleep Duration」に設定されている時間）待機した後、`tuser1/password` として Oracle Collaboration Suite Search に接続します。

1. 「**EMAIL**」チェックボックスを選択します。
2. 「**Contents**」フィールドに「shazam」と入力します。
3. 「**Search**」をクリックします。

送信したメッセージが、メッセージのリストに表示されます。

注意：

- Unified Messaging Housekeeping プロセスの変更前に送信した電子メール・メッセージは索引付けされないため、検索できません。
 - 今回のリリースの Oracle Collaboration Suite では、Web サイトの検索以外の目的で Oracle Ultra Search を構成することはできません。データベース表またはファイル・リポジトリをクロールするために Oracle Ultra Search を構成しないでください。
-

参照： Web サイトを検索するための Oracle Ultra Search の構成については、『Oracle Ultra Search ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

Oracle Workflow と Oracle Files の統合

参照： Oracle Workflow と Oracle Files の統合については、『Oracle Collaboration Suite for HP 9000 Series HP-UX, Linux Intel, and Solaris Operating System (SPARC) インストレーション・ガイド』の第 3 章の「Oracle Files Dependencies on Oracle Workflow 2.6.2」および第 6 章の「新しい Oracle Files ドメインの作成」を参照してください。

アプリケーション URL の構成

アプリケーションのインストールおよび構成後、次の手順でアプリケーション URL を構成します。

1. Oracle9iAS Wireless がインストールされている中間層にログインします。
2. **UNIX ユーザー** : marconi ディレクトリに移動します。

```
$ORACLE_HOME/wireless/server/classes/oracle/panama/marconi
```

3. **Windows ユーザー** : marconi ディレクトリに移動します。

```
%ORACLE_HOME%\wireless\server\classes\oracle\panama\marconi
```

4. marconi.config ファイルは、Oracle Collaboration Suite のホームページから様々なアプリケーションへのリンクを指定します。サンプルの marconi.config ファイルについては、2-14 ページの [例 2-1](#) を参照してください。

また、marconi.config ファイルには、Calendar ポートレットのエンコーディングを指定する calendar.encoding キーが含まれます。Calendar ポートレットが英語以外を正常にサポートするために、calendar.encoding が UTF-8 (デフォルト) に設定されていることを確認してください。

`marconi.config` ファイルを編集して、`%APPLICATION_SERVER_HOST%` および `%APPLICATION_SERVER_PORT%` のトークンの値をサーバーのホストおよびポート値と置き換えます。様々なアプリケーションのデフォルト値については、[表 2-1](#) を参照してください。

表 2-1 アプリケーションのデフォルトの URL

コンポーネント	<code>marconi.config</code> ファイルに指定されているアプリケーションのデフォルトの URL
Oracle Email/Voicemail & Fax	<code>http://%MAIL_SERVER_HOST%:%MAIL_SERVER_PORT%/um/traffic_cop</code>
Oracle Calendar	<code>http://%CALENDAR_SERVER_HOST%:%CALENDAR_SERVER_PORT%/fcgi-bin/owc/lexacal.fcgi?go=login</code>
Oracle Files	<code>http://%FILES_SERVER_HOST%:%FILES_SERVER_PORT%/files/app</code>
Oracle Collaboration Suite Search	<code>http://%SEARCH_SERVER_HOST%:%SEARCH_SERVER_PORT%/files/app/FederatedSearch</code>
Oracle9iAS Wireless	<code>http://%WIRELESS_SERVER_HOST%:%WIRELESS_SERVER_PORT%/</code>
Oracle Portal	<code>http://%PORTAL_SERVER_HOST%:%PORTAL_SERVER_PORT%/pls/portal/portal.home</code>

注意： インストール時に構成用に選択しなかったアプリケーションのトークンの値を変更しないでください。

- 手順 4 で構成した各 URL をブラウザで表示して、適切に動作するかを検証します。各 URL で、対応するアプリケーションの Web インタフェースが表示されます。
- [表 2-2](#) に示す URL をブラウザで表示して、各アプリケーションのポートレット・プロバイダが使用可能かどうかを検証します。各 URL で、ポートレット・プロバイダが実行中であることを示すページが表示されます。

表 2-2 ポートレット・プロバイダのデフォルトの URL

ポートレット・ プロバイダ	URL	説明
OCS_WIRELESS_PROVIDER	http://%WIRELESS_SERVER_HOST%:%WIRELESS_SERVER_PORT%/marconi/servlet/soaprouter	My Favorites、 Greeting、Today's Date および Calendar ポートレットが表示さ れます。
OCS_MAIL_PROVIDER	http://%MAIL_SERVER_HOST%:%MAIL_SERVER_PORT%/um/servlet/soaprouter	Email ポートレットが 表示されます。
OCS_SEARCH_PROVIDER	http://%SEARCH_SERVER_HOST%:%SEARCH_SERVER_PORT%/files/portlet/search	Oracle Collaboration Suite Search ポート レット ¹ が表示されま す。
OCS_FILES_PROVIDER	http://%FILES_SERVER_HOST%:%FILES_SERVER_PORT%/files/portlet	Oracle Files ポート レットが表示されま す。

¹ 通常、Oracle Collaboration Suite Search は、Oracle Files と同一のホスト上に存在します。

例 2-1 marconi.config ファイルのデフォルトの内容

marconi.config ファイルのデフォルトの内容は、次のとおりです。

```
# This file is used to configure the links from the Oracle Collaboration Suite
# Home Page to the various application components
#
# If the application is not configured during installation, the link value
# should be kept to include %SERVER_HOST% and %SERVER_PORT% tokens for
# replacement
#
# For example
# mail=http://%MAIL_SERVER_HOST%:%MAIL_SERVER_PORT%/um/traffic_cop
#
# Tools link points to a certain Oracle Technology Network web page for
# downloading useful tools

mail=http://%MAIL_SERVER_HOST%:%MAIL_SERVER_PORT%/um/traffic_cop
calendar=http://%CALENDAR_SERVER_HOST%:%CALENDAR_SERVER_
PORT/fcgi-bin/owc/lexacal.fcgi?go-login
files=http://%FILES_SERVER_HOST%:%FILES_SERVER_PORT%/files/app
search=http://%SEARCH_SERVER_HOST%:%SEARCH_SERVER_PORT%/files/app/FederatedSearch
wireless=http://%WIRELESS_SERVER_HOST%:%WIRELESS_SERVER_PORT%/
portal=http://%PORTAL_SERVER_HOST%:%PORTAL_SERVER_PORT%/pls/portal/portal.home
tools=http://otn.oracle.com
calendar.encoding=UTF-8
```

注意: ツール・リンクが、Oracle Collaboration Suite のユーザー・ホームページの「Tools」グローバル・ボタンに指定されています。「Tools」グローバル・ボタンを使用して、ダウンロード可能なツールまたはクライアントの実行可能プログラムを含む Web ページを指します。デフォルト値は、<http://otn.oracle.com> です。

参照: 「Tools」グローバル・ボタンを使用して、クライアント・プログラムを使用可能にする方法については、2-15 ページの「「Tools」グローバル・ボタンで使用可能なクライアント・プログラム」を参照してください。

「Tools」グローバル・ボタンで使用可能なクライアント・プログラム

Oracle Collaboration Suite は、デストップ・クライアント、Web クライアント、携帯情報端末、携帯電話および FAX からアプリケーションへの接続をサポートするクライアント・プログラムを提供します。「Tools」グローバル・ボタンで、クライアント・デバイスにこれらのクライアントの実行可能プログラムをダウンロードできます。このボタンは、Oracle Collaboration Suite のユーザー・ホームページの右上隅に表示されます。これを構成する marconi.config ファイルについては、2-14 ページの [例 2-1](#) を参照してください。

次の手順で、「Tools」グローバル・ボタンで、クライアントの実行可能ファイルを使用可能にします。

1. 圧縮または ZIP ファイルになった実行可能プログラムへのリンクを提供する Web ページを作成します。
2. ご使用の Web サーバーにこの Web ページをホスティングします。
3. marconi.config ファイルの `tools=http://otn.oracle.com` 行を確認し、デフォルトの URL を手順 1 で作成した Web ページの URL に置き換えます。

たとえば、ご使用の Web ページを指す URL が `clients.mycompany.com` の場合、次の手順に従って marconi.config ファイルの行を編集します。

```
tools=http://clients.mycompany.com
```

「Tools」グローバル・ボタンにダウンロードしたクライアント・ページをリンクした後、Web アクセス権を持つユーザーがこれらの実行可能プログラムを使用できるようにします。

注意： Oracle Outlook Connector には、エンド・ユーザーが簡単にダウンロードできるようにサイレント・インストール機能があります。他の Oracle Collaboration Suite のクライアントは、エンド・ユーザーにダウンロード用に提供する前に、ご使用の環境に応じてプログラムをカスタマイズする必要があります。

参照： すべての Oracle Collaboration Suite のクライアントのインストールおよび Oracle Outlook Connector のサイレント・インストールについては、『Oracle Collaboration Suite for HP 9000 Series HP-UX, Linux Intel, and Solaris Operating System (SPARC) インストレーション・ガイド』の付録 D 「Oracle Collaboration Suite のクライアントのインストール」を参照してください。

ユーザー・グループ、ユーザー・ホームページおよび管理ページのインストール

Oracle Collaboration Suite のユーザー・グループ (OCS_PORTAL_USERS) は、Oracle Collaboration Suite グループに新しいユーザーを追加する場合、または既存のユーザーをそのグループに移行する場合に使用します。Oracle Collaboration Suite の管理ページ (OCS_ADMIN_PAGE) は、Oracle Collaboration Suite を管理する場合に使用します。

Oracle Collaboration Suite のユーザー・ホームページ (OCS_MAIN_PAGE) には、構成されたアプリケーションから導出されたサマリー情報を表示するポートレットが含まれます。また、このページは、すべてのアプリケーションの起動パッドとして機能する「My Favorites」ポートレットも含まれます。

Oracle Collaboration Suite のユーザー・ホームページは、Oracle Collaboration Suite のユーザー・グループのデフォルトのホームページとして作成および設定する必要があります。Oracle Portal リポジトリを変更するスクリプトを実行して、これを行います。このスクリプトは、リポジトリに Oracle Collaboration Suite のユーザー・グループおよびホームページの定義をインポートし、このホームページが、Oracle Collaboration Suite のユーザー・グループのユーザーの、デフォルトのホームページになるように設定します。

デフォルトのユーザー・ホームページを Oracle Collaboration Suite のユーザー・グループに設定した後、ユーザーはカスタマイズ権限が付与されるため、各ページの表示をカスタマイズできます。

これらのタスクについては、次の項を参照してください。

注意 :

- Oracle Collaboration Suite のポータル・ページをインストールおよび構成する前に、Oracle9iAS Wireless をインストールする必要があります。Oracle9iAS Wireless は、Oracle Portal インタフェースに必要です。
- このタスクの実行中は、Portal Builder の Web ページからポータル・プロバイダを変更しないでください。

次の手順で、Oracle Collaboration Suite のユーザー・グループ、ユーザー・ホームページおよび管理ページをインストールします。

1. Oracle9iAS Wireless が構成されている中間層にログインします。
2. 次の手順で、IP チェックがオフであることを確認します。
 - a. **UNIX ユーザー** : テキスト・エディタを使用して、
\$ORACLE_HOME/Apache/Apache/conf ディレクトリの mod_osso.conf ファイルをオープンします。
Windows ユーザー : テキスト・エディタを使用して、
%ORACLE_HOME%\Apache\Apache\conf ディレクトリの mod_osso.conf ファイルをオープンします。
 - b. OssoIPCheck ディレクティブを確認し、次の手順でオフにします。
OssoIPCheck off
 - c. 次のコマンドを使用して中間層を再起動すると、サーバーが構成ファイルの変更を読み取ります。
\$ORACLE_HOME/opmn/bin/opmnctl stopall
\$ORACLE_HOME/opmn/bin/opmnctl startall
3. ディレクトリを次のとおり変更します。

UNIX の中間層マシンの場合 :

```
cd $ORACLE_HOME/bin
```

Windows の中間層マシンの場合 :

```
cd %ORACLE_HOME%\BIN
```

4. 次のスクリプトを実行します。

UNIX の中間層マシンの場合、次のように入力します。

```
ocsinstall.sh portalusername portaluserpassword
```

Windows の中間層マシンの場合、次のように入力します。

```
ocsinstall.bat portalusername portaluserpassword
```

portalusername には、有効な Oracle Portal の管理者名を使用します。デフォルトの管理者ユーザー名は *orcladmin* で、パスワードは、管理者が中間層のインストール時に指定した値です。

注意： UNIX シェルでセグメント障害エラーが表示された場合、次の手順に従って *\$ORACLE_HOME/wireless/marconi/ocsGroup.sh* を変更する必要があります。

次の行をコメントアウトします。

```
set inpc=`echo $mode | tr -s '[:lower:]'[:upper:]`  
set z=`echo $company_name | tr -s  
'[:lower:]'[:upper:]`
```

これらの行を次の行に置き換えます。

```
set inpc=$mode  
set z=$company_name
```

次の手順で、Oracle Collaboration Suite のユーザー・グループ (OCS_PORTAL_USERS) のデフォルトのホームページに Oracle Collaboration Suite のユーザー・ホームページ (OCS_MAIN_PAGE) を設定します。

1. *orcladmin* として Oracle Portal にログインして、「**Builder**」をクリックします。
2. 「**Builder**」ページで、「**Administer**」タブを選択します。
3. 「**Portal Group Profile**」ポートレットで、OCS_PORTAL_USERS を入力し、「**Edit**」をクリックします。
4. 「**Default Home Page**」フィールドで、「list of value (LOV)」アイコンをクリックして OCS_PAGE_GROUP ノードをオープンします。
5. OCS_MAIN_PAGE ノードの横にある「**Return Object**」リンクをクリックします。
6. メイン・ウィンドウで「**OK**」をクリックします。

次の手順で、Oracle Collaboration Suite のユーザー (OCS_PORTAL_USERS) にカスタム権限を付与します。

1. *orcladmin* のホームページに戻り、「**Navigator**」をクリックします。

2. 次の手順で、OCS_MAIN_PAGE の「Access」ページに移動します。
 - a. 「Navigator」ページで、OCS_PAGE_GROUP の「Contents」リンクをクリックします。
 - b. 「Pages」リンクをクリックします。
 - c. OCS_MAIN_PAGE の「Properties」リンクをクリックします。
 - d. 「Access」タブを選択します。
3. 「Access」タブ・ページの「Grant Access」セクションで、次の手順を実行します。
 - a. 「Grantee」フィールドで OCS_PORTAL_USERS を入力します。
 - b. ドロップダウン・リスト・ボックスから「Customization(Style)」を選択します。
 - c. 「Add」をクリックします。
4. 「Apply」をクリックします。
5. 「OK」をクリックして、「Navigator」ページに戻ります。
6. 次の手順で、OCS_PAGE_BANNER の「Access」ページに移動します。
 - a. 「Navigator」ページで、「OCS_PAGE_GROUP」リンクをクリックします。
 - b. 「Navigation Pages」リンクをクリックします。
 - c. OCS_PAGE_BANNER の「Properties」リンクをクリックします。
 - d. 「Access」タブを選択します。
7. 「Access」タブ・ページの「Grant Access」セクションで、次の手順を実行します。
 - a. 「Grantee」フィールドで OCS_PORTAL_USERS を入力します。
 - b. ドロップダウン・リスト・ボックスから「Customization(Style)」を選択します。
 - c. 「Add」をクリックします。
8. 「Apply」をクリックします。
9. 「OK」をクリックして、「Navigator」ページに戻ります。

Oracle Collaboration Suite のユーザー・ホームページの検証

次の手順で、Oracle Collaboration Suite のユーザー・ホームページのインストールを検証します。

1. orcladmin として Oracle Portal にログインして、「Builder」をクリックします。
2. 「Builder」ページの「Page Groups」ポートレットで、「Edit Page」セクションの「selection」アイコンをクリックします。
3. 「Pages selection」ウィンドウで、OCS_PAGE_GROUP ノードをオープンします。

4. OCS_MAIN_PAGE ノードの横にある「**Return Object**」リンクをクリックします。
5. メイン・ウィンドウの「**View**」をクリックします。

Oracle Collaboration Suite のユーザー・ホームページに、インストール時に構成用に選択したアプリケーションのポートレットが表示されます。

Oracle Collaboration Suite のユーザー・グループへの新しいユーザーの追加

Oracle Collaboration Suite のユーザーが新しく作成された場合、Oracle Collaboration Suite のユーザー・グループ (OCS_PORTAL_USERS) に追加する必要があります。

次の手順で、Oracle Collaboration Suite の新しいユーザーのデフォルト・グループを OCS_PORTAL_USERS に設定します。

1. orcladmin として Oracle Portal にログインして、「**Builder**」をクリックします。
2. 「**Administer**」をクリックします。
3. 「Portal User Profile」ポートレットで、新しいユーザーのユーザー名を入力し「**Edit**」をクリックします。
4. 「**Default Group**」フィールドで OCS_PORTAL_USERS を入力します。
5. 「**OK**」をクリックします。

この時点で、Oracle Collaboration Suite のユーザー・グループは新しいユーザーのデフォルト・グループです。

参照： ディレクトリ・サブツリーに含まれる複数のユーザーのユーザー・グループ属性のデフォルト設定については、『Oracle Internet Directory 管理者ガイド』の bulkmodify コマンドライン・ツールの説明を参照してください。bulkmodify 構文を説明しているこの項では、前述のツールの使用方法が説明されています。

Oracle9iAS Portal のクイック・ツアー・ページへの URL リンクの作成

次の手順で、Oracle9iAS Portal のクイック・ツアー・ページへの URL リンクを設定します。

1. 次の Oracle9iAS Portal の URL をブラウザで表示してください。
`http://server:port/pls/portal/portal.home`
2. Single Sign-On Server のプロンプトで、orcladmin としてログインします。
3. 右上隅の「**Builder**」をクリックします。
4. 右上隅の「**Navigator**」をクリックします。
5. 「**Page Groups**」タブから、OCS_PAGE_GROUP ページ・グループを確認し、「**Contents**」リンクをクリックします。

6. 「Pages」をクリックします。
7. OCS_MAIN_PAGE ページを確認し、「Edit」をクリックします。
8. 左上隅の「Editing Views」を確認し、「Layout」リンクをクリックします。
9. 画面の左下にある「Search」ポートレット、「Calendar」ポートレットおよび「My Favorites」ポートレットを含む領域を確認し、「Add Region Below」をクリックします。
10. 新しく作成した（空の）領域を確認し、「Edit Region」をクリックします。
11. 「Edit Region」画面で、画面上部の「Region Type」セクションの下にある領域タイプを「Portlets」から「Items」に変更します。その後、「OK」をクリックして変更を適用し、レイアウト画面に戻ります。
領域の最初のボタンが「Add Portlet」の「Add Item」へ変更する方法に注意してください。
12. 「Add Item」をクリックしてから、次の手順に従います。
 - a. 「Item Type Selection」で、「Content Item Types」が選択されていることを確認します。
 - b. ドロップダウン・リストから「Simple URL」を選択し、「Next」をクリックして続行します。

注意： Simple URL が項目タイプ・リストで使用可能でない場合、次の手順を実行します。

1. 「Cancel」をクリックして、「Add Item」画面を終了します。
 2. レイアウト画面から「Page Group: Properties」>「Edit Page Group: OCS_PAGE_GROUP」>「Configure」>「Content Type and Classification」>「Current Selection」>「Edit」>「Item Types」へ移動し、「Visible Item Types」に Simple URL が表示されていることを確認します。
 3. 「OK」をクリックして変更を適用し、「Edit Page Group」画面に戻ります。
 4. 再度「OK」をクリックして、レイアウト画面に戻ります。
-

13. 「Item Attributes」で、クイック・ツアーの起動ページの URL を入力し、テキストへのリンクを指定します。次に例を示します。

http://server:port/quicktutorial/html/quicktour_home.htm

これをクリックすると、Oracle Collaboration Suite のクイック・ツアーが表示されます。

14. 「Finish」をクリックして変更を適用し、レイアウト画面に戻ります。
 15. レイアウト画面の右上隅にある「Return to View Page」をクリックして、新しいOCSのホームページをプレビューします。
- クリック・ツアーへのリンクは、「**My Favorites**」ポートレットの下に表示されます。

注意： ロゴなどのイメージをリンクに追加する場合は、手順12bで項目タイプとしてSimple URLのかわりにURLを選択します。手順13でのクリック・ツアーのURLの入力とテキストへのリンクに加えて、イメージをプラウザで表示して、ベースラインやリンク上のイメージなどの位置合せオプションを選択します。

Oracle Collaboration Suite ユーザーのプロビジョニング

ユーザーは、Oracle Internet Directoryで集中管理されます。ユーザーは、Oracle Internet Directoryに追加された際、暗黙的にOracle9iAS Wireless、Oracle FilesおよびOracle Ultra Searchのアプリケーションにプロビジョニングされます。Oracle Email、Oracle Voicemail & FaxおよびOracle Calendarでは、ユーザーは個々のアプリケーションでプロビジョニングされる必要があります。

参照：

- Oracle Emailのユーザーのプロビジョニングについては、『Oracle Email管理者ガイド』を参照してください。
- Oracle Voicemail and Faxのユーザーのプロビジョニングについては、『Oracle Voicemail & Fax Administrator's Guide』を参照してください。
- Oracle Calendarのユーザーのプロビジョニングについては、『Oracle Calendar Server Administrator's Guide』を参照してください。

Oracle Collaboration Suite の管理

Oracle Collaboration Suite アプリケーションは、Oracle Enterprise Managerで管理されます。

参照： Oracle Enterprise Managerでのアプリケーションの管理については、『Oracle9i Application Server管理者ガイド』を参照してください。

Oracle Collaboration Suite へのアプリケーションの追加

Oracle Collaboration Suite のインストール中、スイート全体ではなく特定のアプリケーションを構成することもできます。この後、Oracle Collaboration Suite の新しいアプリケーションをインストールする場合は、次のインストール後のタスクを実行する必要があります。

- [Application Server の URL の構成](#)
- [Oracle Collaboration Suite のユーザー・グループ、ユーザー・ホームページおよび管理ページのインストール](#)

Application Server の URL の構成

次の手順で、新しいアプリケーションに Oracle9i Application Server の URL を構成します。

1. `orcladmin` として Oracle Portal にログインして、「**Builder**」をクリックします。
2. 「**Page Groups**」ポートレットで、「Edit Page」セクションの「selection」アイコンをクリックします。
3. 「Pages selection」ウィンドウで、**OCS_PAGE_GROUP** ノードをオープンします。
4. **OCS_ADMIN_PAGE** ノードの横にある「**Return Object**」リンクをクリックします。
5. メイン・ウィンドウの「**View**」をクリックします。
6. 「**Server URL Configuration**」ポートレットを確認します。
7. URL を変更して、インストールした Application Server に適切な値を指定します。
8. 「**Submit**」をクリックして、値を更新します。

注意： Application Server の URL を、`marconi.config` ファイルを変更して直接構成した場合は、URL をリフレッシュする必要があります。リフレッシュするには、**OCS_ADMIN_PAGE** の「**Server URL Configuration**」ポートレットで「**Refresh**」をクリックします。

Oracle Collaboration Suite のユーザー・グループ、ユーザー・ホームページおよび管理ページのインストール

次の手順で、Oracle Collaboration Suite のユーザー・グループ、ユーザー・ホームページおよび管理ページをインストールします。

1. Oracle9iAS Wireless が構成されている中間層にログインします。
2. ディレクトリを次のとおり変更します。

```
cd $ORACLE_HOME/bin
```

3. 次のとおり入力します。

```
ocsinstall.sh portalusername portaluserpassword
```

portalusername には有効な Oracle Portal の管理者名 (orcladmin など) を使用します。

注意： ブラウザとして Netscape を使用しており、Solaris で Oracle Collaboration Suite 用のバッチを適用していない場合は、ユーザー・インターフェースを表示しても Oracle Collaboration Suite のロゴは表示されません。

次の手順で、破損したロゴを修正します。

1. Netscape ブラウザから orcladmin としてログインします。
2. 「Builder」をクリックします。
3. 「Navigator」をクリックします。
4. OCS_PAGE_GROUP の「Contents」リンクをクリックします。
5. 「Navigation Pages」をクリックします。
6. OCS_PAGE_BANNER の「Edit」リンクをクリックします。
7. 「Edit」アイコン（鉛筆）をクリックして、「Edit Simple Image」ページを表示します。このアイコンは、画面の左側にある 2 番目の項目の横にあります。
8. UNIX ユーザー：「Browse」をクリックして、\$ORACLE_HOME/j2ee/OC4J_Portal/applications/marconi/marconi-web/images ファイルに格納されている product_logo.gif ファイルを検索します。

Windows ユーザー：「Browse」をクリックして、C:\j2ee\OC4J_Portal\applications\marconi\marconi-web\images ファイルに格納されている product_logo.gif ファイルを検索します。

9. 「OK」をクリックして、新しいイメージをロードします。
10. 「Navigator」をクリックします。
11. OCS_ADMIN_PAGE_BANNER の「Edit」リンクをクリックします。
12. 「Edit」アイコンをクリックして、「Edit Simple Image」ページを表示します。このアイコンは、画面の左側にある 2 番目の項目の横にあります。
13. UNIX ユーザー：「Browse」をクリックして、\$ORACLE_HOME/j2ee/OC4J_Portal/applications/marconi/marconi-web/images ファイルに格納されている product_logo.gif ファイルを検索します。

Windows ユーザー： 「Browse」 をクリックして、 C:\j2ee\OC4J_Portal\applications\marconi\marconi-web\images ファイルに格納されている product_logo.gif ファイルを検索します。

「OK」 をクリックして、新しいイメージをロードします。

A

Oracle Collaboration Suite への アプリケーションの移行

この付録では、Oracle Collaboration Suite への移行タスクについて説明します。

この付録の内容は、次のとおりです。

- Oracle9i Application Server と Oracle Collaboration Suite の互換性
- 既存の Oracle9i Application Server インフラストラクチャの利用
- 既存の中間層プラットフォームの利用
- 既存の Oracle Enterprise Manager のインフラストラクチャの利用
- 既存のアプリケーションの移行

Oracle9i Application Server と Oracle Collaboration Suite の互換性

Oracle Collaboration Suite のアプリケーションは、Oracle9i Application Server (Oracle9iAS) リリース 2 (9.0.2) のアプリケーションと同様に、基礎となる Oracle9iAS リリース 2 (9.0.2) のアーキテクチャに基づいています。ただし、Oracle Collaboration Suite のアプリケーションは、Oracle Collaboration Suite 用に拡張されているため、Oracle9iAS のアプリケーションとの相互運用性および共存に制約があります。

表 A-1 に、インフラストラクチャとアプリケーションの互換性を示します。

表 A-1 インフラストラクチャとアプリケーションの互換性

インフラストラクチャ	Oracle Collaboration Suite のアプリケーション	Oracle9iAS リリース 2 (9.0.2) のアプリケーション	Oracle9iAS リリース 9.0.3 のアプリケーション
Oracle Collaboration Suite のインフラストラクチャ	あり	あり	あり
Oracle9iAS リリース 2 (9.0.2) のインフラストラクチャ	あり (Oracle Collaboration Suite のインフラストラクチャ・パッチのインストール後)	あり	あり
Oracle9iAS リリース 1 の Internet Directory および Oracle Single Sign-On のインフラストラクチャ	あり (Oracle9iAS リリース 2 (9.0.2) への移行および Oracle Collaboration Suite のインフラストラクチャ・パッチのインストール後)	あり (Oracle9iAS リリース 2 (9.0.2) への移行後)	あり (Oracle9iAS リリース 2 (9.0.2) への移行後)

表 A-2 に、中間層プラットフォームとアプリケーションの互換性を示します。

表 A-2 中間層プラットフォームとアプリケーションの互換性

中間層プラットフォーム	Oracle Collaboration Suite のアプリケーション	Oracle9iAS リリース 2 (9.0.2) のアプリケーション	Oracle9iAS リリース 9.0.3 のアプリケーション
Oracle Collaboration Suite の中間層プラットフォーム	あり	なし	なし
Oracle9iAS リリース 2 (9.0.2) の中間層プラットフォーム	なし	あり	なし
Oracle9iAS リリース 1 の中間層プラットフォーム	なし	あり	なし
Oracle9iAS リリース 9.0.3 の中間層プラットフォーム	なし	なし	あり

既存の Oracle9i Application Server インフラストラクチャの利用

Oracle Collaboration Suite のアプリケーションは、基本的に、Oracle9iAS のアプリケーションと同じセキュリティ・インフラストラクチャに依存するため、インフラストラクチャ・コンポーネント (Oracle Internet Directory、Oracle Single Sign-On およびメタデータ・リポジトリ・データベース) 用のパッチを適用すると、既存の Oracle9iAS のインフラストラクチャを利用できます。

このパッチは Oracle Collaboration Suite に含まれていて、Oracle Universal Installer で既存の Oracle9iAS リリース 2 (9.0.2) インフラストラクチャにインストールできます。

リリース 2 (9.0.2) より前の Oracle9iAS インフラストラクチャの場合は、リリース 9.0.2.1.0 に移行した後、パッチを適用する必要があります。

既存の中間層プラットフォームの利用

Oracle Collaboration Suite のアプリケーションは、Oracle9iAS の既存の中間層プラットフォームには配置できません。Oracle Collaboration Suite のアプリケーションには、独立した Oracle ホーム、および Oracle Collaboration Suite に付属のセキュリティ・インフラストラクチャのバージョンが必要です。

既存の Oracle Enterprise Manager のインフラストラクチャの利用

システム管理の場合、Oracle Collaboration Suite のアプリケーションは、Oracle9iAS と同じ管理インフラストラクチャに依存します。Oracle9iAS の管理インフラストラクチャをすでに配置している場合は、それを使用するか、または新しく Oracle Collaboration Suite の管理インフラストラクチャを配置できます。

既存のアプリケーションの移行

現在 Oracle Collaboration Suite 内に存在するアプリケーション (Oracle Email など) をすでに配置している場合は、Oracle Collaboration Suite への移行パスが使用可能です。

注意： Oracle Collaboration Suite のアプリケーションは、以前 Oracle9iAS でリリースされたアプリケーションとは相互運用できません。

参照：

- 既存のシステムから Oracle Files へのコンテンツおよびユーザーの移行については、『Oracle Files 管理ガイド』の付録 D 「Oracle Files へのデータの移行」を参照してください。
- Oracle Ultra Search のアップグレードについては、『Oracle Ultra Search ユーザーズ・ガイド』の「Post-Installation and Upgrade Information」を参照してください。
- Oracle Email への移行については、『Oracle Email Migration Tool ガイド』を参照してください。
- 移行およびアップグレードの詳細は、『Oracle Collaboration Suite for HP 9000 Series HP-UX, Linux Intel, and Solaris Operating System (SPARC) インストレーション・ガイド』およびリリース・ノートを参照してください。

索引

A

AFP Protocol, 1-5
「Attribute for Login Name」の属性, 2-8

B

「Back to Portal」ボタン, 2-10
bulkmodify コマンドライン・ツール, 2-20

C

Calendar Server ホストの指定
「Oracle Calendar Web Client」を参照

F

FTP Protocol, 1-5

H

HTTP Protocol, 1-5

I

IMAP Protocol, 1-5
IP チェック, 2-17

M

marconi.config ファイル, 2-13
デフォルトの内容, 2-14
Microsoft Outlook のサポート, 1-4
Microsoft の交換サポート, 1-4
mod_osso.conf ファイル, 2-17

N

Netscape
破損した Oracle Collaboration Suite ロゴ, 2-24
Netscape で破損した Oracle Collaboration Suite ロゴ, 2-24
NFS Protocol, 1-5

O

OCS_ADMIN_PAGE ページ, 2-16
OCS_MAIN_PAGE ページ, 2-16
OCS_PAGE_GROUP, 2-19, 2-20
OCS_PORTAL_USERS ページ, 2-16
ocsinstall.bat スクリプト, 2-18
ocsinstall.sh スクリプト, 2-17
Oracle Calendar
Oracle Internet Directory の構成, 2-8
Oracle Outlook Connector のサイレント・インストール, 2-16
unison.ini ファイル, 2-7
アプリケーションのデフォルトの URL, 2-13
インストール後, 2-5
概要, 1-8
環境変数の設定, 2-4
サーバーの停止と起動, 2-5
サポートされているプロトコル, 1-5
シングル・サインオンの構成, 2-6
ユーザーのプロビジョニング, 2-22
ユーザー・ベースへのクライアントのダウンロード, 2-15

Oracle Calendar Web Client
Calendar Server ホストの指定, 2-7
Oracle Collaboration Suite
IP チェックをオフにする, 2-17

- Netscape で破損したロゴの修正, 2-24
Oracle Enterprise Manager での管理, 2-22
アプリケーション
 Oracle Calendar, 1-8
 Oracle Email, 1-8
 Oracle Files, 1-9
 Oracle Ultra Search, 1-9
 Oracle Voicemail & Fax, 1-8
 Oracle9iAS Wireless, 1-9
 アプリケーションの移行, A-1
 アプリケーションの追加, 2-23
 インストール後のタスク, 2-2
 インフラストラクチャの起動と停止, 2-17
 概要, 1-2
 機能
 Flexible Architecture, 1-3
 Microsoft Outlook, 1-4
 検索, 1-4
 シングル・サインオン, 1-4
 通信インフラストラクチャ, 1-3
 統合された Web クライアント, 1-4
 統合されたユーザー管理, 1-4
 互換性, A-2
 デフォルト・ホームページの設定, 2-18
 認証, 1-6
 ページのインストール, 2-16
 ページのカスタマイズ権限の付与, 2-18
 ユーザー・グループへの新しいユーザーの追加, 2-20
 ユーザーのプロビジョニング, 2-22
Oracle Collaboration Suite Search
 アプリケーションのデフォルトの URL, 2-13
 電子メールの内容の使用可能化, 2-11
 ポートレット・プロバイダのデフォルトの URL, 2-14
Oracle Collaboration Suite のページのインストール
 カスタマイズ権限の付与, 2-18
 IP チェックをオフにする, 2-17
Oracle Collaboration Suite へのアプリケーションの追加, 2-23
Oracle Data Guard support, 1-3
Oracle Email
 「Return to Portal」ボタン, 2-9
 アプリケーションのデフォルトの URL, 2-13
 インストール後の構成, 2-9
 概要, 1-8
 サポートされているプロトコル, 1-5
 ポートレット・プロバイダのデフォルトの URL, 2-14
 ユーザーのプロビジョニング, 2-22
Oracle Wireless and Voice
 アプリケーションのデフォルトの URL, 2-13
 ポートレット・プロバイダのデフォルトの URL, 2-14
Oracle Calendar
 Oracle Files の統合, 2-12
Oracle9i Application Server
 Oracle Collaboration Suite との互換性, A-2
 概要, 1-3
 既存サーバー・インフラストラクチャの利用, A-3
 Oracle9i Real Application Clusters のサポート, 1-3
 ポートレット・プロバイダのデフォルトの URL, 2-14
 ユーザーのプロビジョニング, 2-22
Oracle Enterprise Manager
 Oracle Collaboration Suite の管理, 2-22
 Oracle9i Application Server からの使用, A-4
Oracle Files
 「Back to Portal」ボタン, 2-10
 Oracle Files の「Server Configuration」プロパティ・ページ, 2-10
 Oracle Workflow の統合, 2-12
 アプリケーションのデフォルトの URL, 2-13
 インストール後の構成, 2-10
 概要, 1-9
 「Server Configuration」ページ, 2-10
 サポートされているプロトコル, 1-5
 ポートレット・プロバイダのデフォルトの URL, 2-14
Oracle Internet Directory
 一元化されたユーザー管理, 1-4
 ユーザーのプロビジョニング, 2-22
Oracle Portal
 アプリケーションのデフォルトの URL, 2-13
 リポジトリ, 2-16
Oracle Technology Network Japan (OTN-J) URL, v
Oracle Ultra Search
 概要, 1-9
Oracle Voicemail & Fax
 「Return to Portal」ボタン, 2-9
 アプリケーションのデフォルトの URL, 2-13
 インストール後の構成, 2-9
 概要, 1-8
 サポートされているプロトコル, 1-5
 ポートレット・プロバイダのデフォルトの URL, 2-14
 ユーザーのプロビジョニング, 2-22

Oracle9iAS Wireless

概要, 1-9
サポートされているプロトコル, 1-5
orcladmin, 2-12, 2-18, 2-19, 2-20
OssoIPCheck ディレクティブ, 2-17
Outlook Connector, 1-4

P

POP3 Protocol, 1-5
「Return to Portal」ボタン, 2-8

S

SMB Protocol, 1-5
SMS サービス, 1-5
SMTP Protocol, 1-5

T

ThinClientNavigationBar.properties ファイル, 2-9
「Tools」ボタン, 2-15

U

unison.ini ファイル, 2-7, 2-8
unistart コマンド, 2-5
URL、ポートレット・プロバイダのデフォルト, 2-14
URL、アプリケーションのデフォルト, 2-13

V

Voice XML, 1-5

W

webcal.ini ファイル, 2-7, 2-8
WebDAV Protocol, 1-5

あ

アプリケーション URL、デフォルト, 2-13

い

インストール後のタスク
Oracle Calendar 環境変数の設定, 2-4

Oracle Collaboration Suite のページのインストール, 2-16

Oracle Collaboration Suite ユーザーのプロジェクトニング, 2-22

Oracle9i Application Server のセキュリティ・インフラストラクチャの配置, 2-2

Oracle9iAS Portal のクイック・ツアー・ページへの URL リンクの設定, 2-20

アプリケーション URL の構成, 2-12

アプリケーションの構成, 2-3

概要, 2-2

ユーザー・ホームページのインストールの検証, 2-19

インフラストラクチャ
起動と停止, 2-17

か

環境変数
設定, 2-4

き

既存の Oracle9i Application Server インフラストラクチャの利用, A-3

既存のアプリケーションの移行, A-4

既存の中間層プラットフォームの利用, A-3

こ

個人情報管理 (PIM) サポート, 1-8

さ

サポートされているインターフェース, 1-2

サポートされているデータ型, 1-2

サポートされているプロトコル

音声およびボイスメール, 1-5

カレンダ, 1-5

電子メール, 1-5

ファイル・アクセス, 1-5

ワイヤレス, 1-5

し

シングル・サインオンのサポート, 1-4

す

スクリプト

(c)oraenv, 2-4
ocsinstall.bat, 2-18
ocsinstall.sh, 2-17

に

認証, 1-6

は

破損した Oracle Collaboration Suite ロゴの修正, 2-24
破損したロゴの修正

「Oracle Collaboration Suite」を参照

パラメータ

複数の中間層インストールの変更, 2-7, 2-8

ふ

複数の中間層インストール
パラメータの変更, 2-7, 2-8

ほ

ポートレット・プロバイダの URL、デフォルト, 2-14

め

メッセージ・ストア, 1-8

ゆ

ユーザー管理, 1-4
ユーザーのプロビジョニング, 2-22
複数ユーザーのユーザー・グループ属性の設定,
2-20